

震災がつなぐ全国ネットワーク 2020 年度事業 移動寺子屋 in 鹿児島 実施報告書

文責：松山文紀（災害対応 NPO MFP）

日時：2021 年 2 月 24 日（水）10:30～16:00

場所：県青少年会館（鹿児島市鴨池新町 1-8）

参加者：37 名（鹿児島県内の社協職員、NPO、災害ボランティア関係者など）

講師：松山文紀（災害対応 NPO MFP）、中島武志（災害救援レスキューアシスト）

タイトル：技術系ボランティア・NPO から水害時の取り組みを学ぶ

内容：水害被災後の対応（座学）、床キットを活用した実践講習

主催：震災がつなぐ全国ネットワーク 共催：鹿児島県社会福祉協議会

◆鹿児島県内での移動寺子屋開催

2020 年、鹿児島県社協主催の社協職員を対象とした災害ボランティアセンター運営者研修開催にあたり、講師およびアドバイザーの依頼をいただいたことをご縁に、水害対応の実践版として、鹿児島県社協に移動寺子屋開催のカウンターパートとして協力いただいた。

会場手配、参加者申込受付を鹿児島県社協が担当し、講師派遣および床キット搬送等を震つなが担った。

◆震つなと鹿児島県のつながり

2016 年夏に鹿児島県垂水市で水害が発生。現地に支援に入っていた関係者より、床下対応ができる団体に支援に入ってほしいとの依頼があり、熊本地震の対応をしていた震つな会員（風組関東、災害 NGO ラブ & アース、災害救援レスキューアシスト）が現地入り。家屋復旧のほか、現地の災害ボランティアセンター運営者向けに現地での OJT を行うなどしたことから、先述の県社協主催講座の講師依頼をいただくことになった。

◆参加者について

県社協主催の講座（2020 年 11 月）では、参加対象が社協職員のみだったが、寺子屋では社協職員のほか、災害支援を行う NPO らの参加もあった。

◆水害被害について想像する

過去の水害被災地の被害状況の画像を見ていただきながら、発災後に被災者がどのような心境になるの

か。その状況を改善する一つの手段が技術系の支援であること、などについて、NHK 作成の動画を活用しながら座学を行った。



NHK の動画を活用しての座学

◆家屋への適切な対応を知る

水害にあったときに（冊子版）、RSY 機関誌あるある、などの資料を活用し、家屋の構造や水害後の適切な対応についての座学を行った。



RSY 機関誌「あるある」を活用しての座学

◆床キットを使っての実践講習

午後から、床キットを活用しての実践講習を行った。



◆参加者アンケートより（回答 20 人）

◇満足度を 100 点満点で表現すると

100 点=7 人

90~99 点=8 人

80~89 点=4 人

その他=1 人（60 点）

◇点数の理由

知ってる事がほとんどでしたが、僕自身がボランティアに参加する方々に伝えたい事だったから(100 点)

中々これまでにない取り組みでよかったと思います。水害に絞って、具体的な復旧作業など多くの方が参考になったと思います。ただ、行政関係の方が多かったので、今後ボラセンを立ち上げるときに必要なことなどがもっとあればよかったかなと思います。これが-10 点分です。(90 点)

地元沢山講師がいると思う（60 点）

◇自由記述

とても必要な事だらけで、学びと確認の時間になりました。講師のお二人がとても分かりやすく聞きやすかったです。

参加して良かったです。できれば、もっと多くの町民の方や業界の方に知って欲しいと思いました。鹿

話がわかりやすかったです。実際に水害の現場にいられている方の話が聞けて、現場の気持ちが伝わってきました。現場に行くにあたってのコロナ禍で注意する点等があれば、聞きたかったです。

◆企画を終えて

鹿児島県社協の協力をいただき、積極的な参加者が多数迎えての寺子屋を開催することができ、とても有意義な機会となった。社協職員も多く参加しており、地元 NPO や技術系の組織との連携を進めるきっかけとなったように思う。

以上